莎草研究 No. 23: 1−2 (2021).
J. Jpn. Cyperol. (23): 1−2 (2021).

【産地報告】

伊豆（静岡県）から見出されたヤリテンツキ（カヤツリグサ科）

矢野興一*・田村優希
（岡山理科大学大学院生物地球科学研究科 〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町 1-1）

Okihito YANO* and Yuki TAMURA: *Fimbristylis ovata* (Burm. f.) J. Kern (Cyperaceae) from Izu, Shizuoka Prefecture, Japan

(Graduate School of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science, Ridai-cho 1-1, Kita-ku, Okayama-shi, Okayama 700-0005, JAPAN)
*Corresponding author: oki.yano@gmail.com

(2020 年 11 月 24 日　受理)

はじめに

ヤリテンツキ *Fimbristylis ovata* (Burm. f.) J. Kern（カヤツリグサ科）は、主に海岸沿いの日当たりのよい草地に生育する多年生草本である。日本産ヤリテンツキの分布は、本州では限られており、千葉県（房総半島）、神奈川県（三浦半島）、静岡県（伊豆半島）、三重県（菅島）、和歌山県（紀伊半島）、山口県（三島）からの記録がある（田村・矢野 2020）。このうち静岡県のヤリテンツキについては、『静岡県植物誌』（杉本 1984）に「伊豆下田（白浜 笹本岩男 1964） 稀」とある。静岡県のレッドデータブック 2020 年版（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課 2020）では、ヤリテンツキについて「静岡県植物誌（1984）には下田市の白浜海岸の記録が載っているが、その後の確認の情報はない」とし、「絶滅危惧 IA 類」に選定している。また、田村・矢野（2020）においても「静岡県からの標本を確認していないので、静岡県での今後の詳細な調査が必要である」としている。したがって、静岡県のヤリテンツキは、1964 年以来、確実な記録はないと考えられた。

そこで、著者の一人の矢野は静岡県におけるヤリテンツキの現状を調べるため、2020 年 10 月に静岡県伊豆半島の下田市および賀茂郡南伊豆町周辺で現地調査をおこない、南伊豆町でヤリテンツキの自生を確認したので、ここに報告する。

調査および生育地の状況

2020 年 10 月 29 日と 30 日に、静岡県下田市から南伊豆町にかけて、ヤリテンツキが生育していそうな海岸沿いの開けた草地をいくつか訪れた。その結果，過去に採集記録のある下田市白浜およびその周辺ではヤリテンツキは確認できなかったものの、南伊豆町の駿河湾に面した崖地の開けた草地にヤリテンツキが 100 株ほど生育しているのを確認した（図 1）。南伊豆町におけるヤリテンツキの確認は今回が初めてであり、静岡県産としても 56 年ぶりの確認であると考えられる。

ヤリテンツキは静岡県のレッドデータブック 2020 年版（静岡県くらし・環境部環境局自然保護課 2020）では「絶滅危惧 IA 類」とされ、「生育地が確認された場合は、生育環境に配慮した保護対策が必要である」と指摘されている。今回ヤリテンツキを確認したところは、草原内に敷設された遊歩道に面しており、遊歩道が拡張されたり舗装されるなど、

人工的に整備されることにより自生地が破壊されるおそれもあることから、早急に自生地の保護・保全対策を考える必要がある。

図 1. 静岡県南伊豆町のヤリテンツキ. **A:** ヤリテンツキの小穂. **B:** 自生地（2020 年 10 月 30 日撮影）.

証拠標本

ヤリテンツキは静岡県では絶滅危惧 IA 類とされることから、詳細な地名は省略した。証拠標本は岡山理科大学植物標本庫（OKAY）に、一部の重複標本は神奈川県立生命の星・地球博物館（KPM）および東京大学植物標本室（TI）に収蔵されている。

静岡県. 賀茂郡南伊豆町 (O. Yano nos. 20103001−20103012, 30 Oct. 2020, OKAY; no 20103012 for KPM, TI).

参考文献

静岡県くらし･環境部環境局自然保護課（編）2020. まもりたい静岡県の野生生物2020 －静岡県レッドデータブック－ 〈植物・菌類編〉. 502 pp. 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課, 静岡.

杉本順一 1984. 静岡県植物誌. 814 pp. 第一法規出版, 東京.

田村優希・矢野興一 2020. 日本産ヤリテンツキ（カヤツリグサ科）の分布. 莎草研究 (22): 23−35.